



安曇野市

第16号

農業委員会だより

今年の春の遅霜や夏の猛暑による被害にも負けず、真っ赤なりんごの収穫時期を迎えることができました。

来年は異常気象や鳥獣被害のない豊かな実り迎えることができるでしょうか。



● 主な内容 ●

三郷地域の農業委員による荒廃農地解消の取り組み…2・3	句の一句・一首……………3
農業者年金について……………4・5	がんばる農業者……………6
プラザ安曇野と安曇野市産直センターのご紹介……………7	おふくろの味……………8

発行日／平成25年12月4日

編集と発行／安曇野市農業委員会

安曇野市三郷明盛4810番1 tel0263(77)3111

農業委員会事務局ホームページアドレス

<http://www.city.azumino.nagano.jp/gyosei/kakuka/nogyo/index.html>

申請書、届書のダウンロードができます。

減反見直しによる水田農業がどうなるか

会長 板花 守夫

米の減反政策は40余年を経過し需給のバランスを取りつつ米価安定のため生産調整を実施し、生産農家と地域農業を維持し、守ってきました。

今回政府は米を自由に作れるようにして競争力のある強い農業を育成し併せて減反の廃止による補助金の縮小廃止という方針を打ち出しました。又、国は攻めの農業をうたい文句に10年間で農業所得を倍増する計画で、六次産業の振興や農地集積のための中間管理機構の設置等により経営規模を拡大し、強い農家を確立しようとしています。

しかしながら現地の実態は米価の値下がり予想や、中山間地域農業の再生、さらに転作田復帰の困難さをはじめ、機械器具購入経費や中小規模の兼業農家に対するきめ細やかな補助制度など具体的な姿も見えない状況です。

農業は自然と環境を保全し地域を守る重大な役目を担っています。今後の農業政策が猫の目農政とならないよう将来を見据えた農業強化策を強く要望いたします。

三郷地域の農業委員による荒廃農地解消の取り組み

三郷地域 中田 平男 農業委員

三 郷地域農業委員会（三澤豊生地域長）では、去る8月12日午後、真夏日の猛暑の中、10名の地域委員総出で、2台のタイヤドーザーをはじめ、大型トラクターや各自持ち寄った農具で、葛やアレチウリ、アカシ

こ ヤなどが繁茂した3圃場40アールを解消しました。地域の荒廃は、以前から課題で、近年ますますアレチウリが脅威となってきたための応急処置として取り組まれたもの



解消前の農地の様子



解消作業中の様子

です。平成25年度当初の当市の荒廃農地の面積は、67.8haで、その内の32.7haが三郷地域にあります。

三 郷地域のほとんどの農地は、基盤整備が実施され、特に西部山麓地帯は、中信平基盤整備事業により、区画整理と灌水施



解消作業中の様子

次 に荒廃地のほとんどが葛・アレチウリ・アカシヤといった旺盛な繁殖力のある植物に対する対策方法であります。特にアレチウリは葛で覆われた圃場の上に覆いかぶさるように繁茂しています。また、アカシヤの若木とアレチウリが共存している畑もあります。少なくともこれらの課題を「荒廃農地の解消」といった言葉や文字でなく、「解消」という行動と方向付けが求められています。



し 設等が完備された県下でも有数の農業生産地帯であります。かしながら、私も東小倉地区は三郷だけでなく、豊科、堀金、穂高等からの入り作の土地所有者が多く、三郷地区の荒廃農地の47%が当東小倉地区内に存在し、そのほとんどの所有者は地区外の方々です。農地所有者が地区内の方であれば、解消はし易いと思われませんが、広範囲の所有者に対し、どのような取り組みが有効なのか、方向付けが急務と思われれます。



解消された農地

旬の一句・一首

<p>人と猿 共存目指す 知恵比べ 明科 沖 堅賜委員</p>	<p>異常気象 お見舞い申すと 添えられし 「5Lサイズ」の 西瓜届きぬ 堀金 一志みゆきさん</p>	<p>アレチウリ くずをからんで 倍返し 三郷 丸山 多江さん</p>	<p>TPP交渉 一人しやがんで 一人立ち 穂高 古畑 袈裟勝委員</p>
---------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------	---------------------------------------------------

地域農業委員が加入推進



農 業者年金が農業者の老後の生活を安定と福祉の向上を図るとともに農業者の確保をはかることを目的とする政策支援であることから、農業委員会では、加入推進活動を取り組むこととしています。

しかし、50〜60歳すぎの経営主の大多数は、制度改正前の旧制度に対する不信感を抱いており、また新制度に生まれ変わった農業者年金の周知も今ひとつで、若い農業者の方の関心が薄いのが現状です。

そ こで農業委員会では、制度をさらに幅広くPRし関心を持っていただくために、今後も農業委員会だよりやホームページ等でのPRとパンフレット配布や戸別訪問で加入推進をはかっています。

農業者年金加入者のご紹介

永年、農業を営んできた祖父のすすめで農業者年金に加入した長瀬徳久さん。

祖父の茂さんは農業委員の経験もあり、農業者年金について熟知しており、保険料を納付しても65歳までに経営移譲をするか否かによって年金額に大きな差が出ることに疑問を抱いていました。

しかし、今の農年制度は農業をしながらでも、支払った分は必ず支給されることを知り、国民年金だけではなく上乗せ部分は農業者年金がいいと考え、40過ぎてから老後を中心配するよりも、若い今のうちから積み立てていくことを徳久さんにすすめ、年金に加入することになりました。

農業者年金は農家の厚生年金と話してくださった茂さん

農業者年金加入PRのため、ラジオコマーシャルを放送しております。ぜひ、お聞きください。

放送局 SBCラジオ
放送時間 1日2回(12月12日まで)
 午前 10:30 ~ 12:10
 午後 3:00 ~ 3:30

なお、農業者年金に関してはお近くのJ Aまたは農業委員会事務局までお問い合わせください。

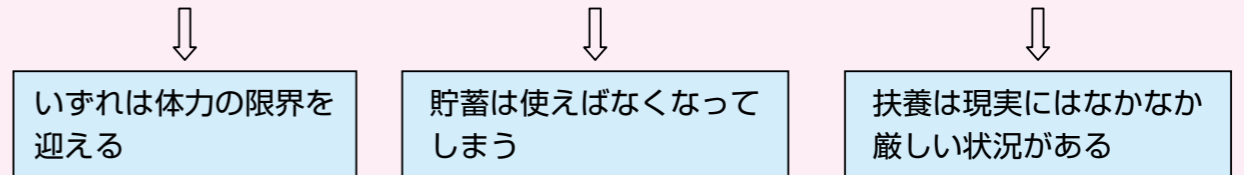


「60〜70歳はまだつぼみ、80歳は働き盛り、90歳になったら留守と言いつつ、100歳になつたら…」そうおっしゃる生涯現役の茂さんのもとで農業経営にいそしむ徳久さんです。

しっかり積立、がっちりサポート 農業者年金

老後の生活の収入確保について

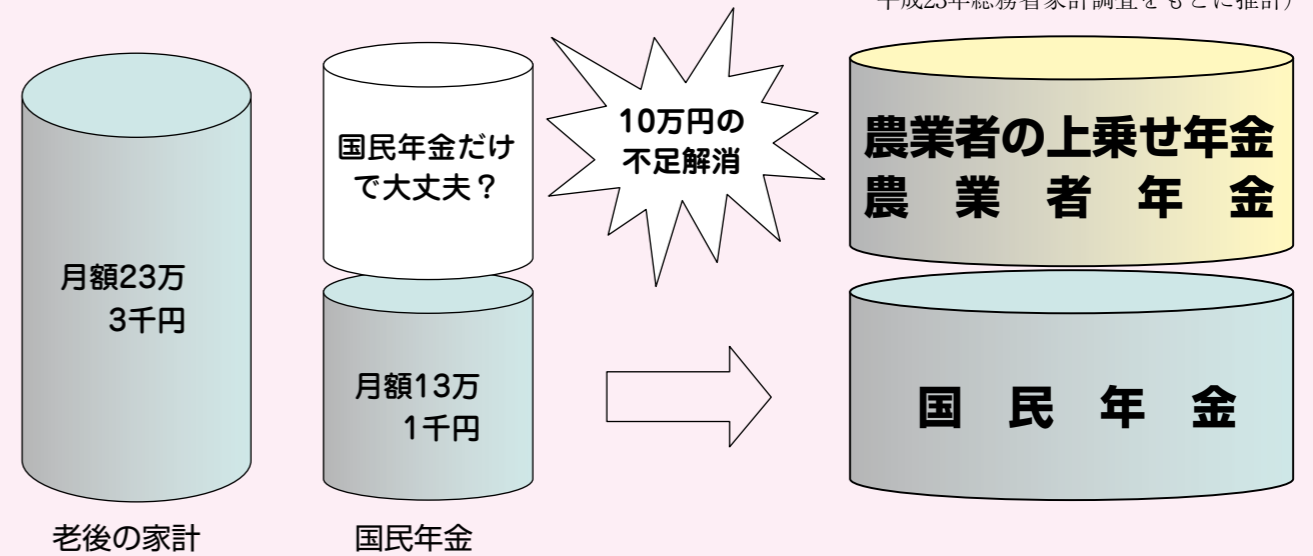
- 生涯現役で農業続ける
- 貯蓄したものを使う
- 子供や孫と同居して扶養してもらう



頼りになるのは公的年金

老後の家計費と国民年金の比較(夫婦2人)

平成23年総務省家計調査をもとに推計)



少子高齢化を迎えて年金の必要性・重要性が増してきている時だからこそ

少子高齢時代に強い農業者年金制度

- 農業者年金に加入するには
- ①国民年金の第1号被保険者
 - ②年間60日以上農業に従事する
 - ③60歳未満の人なら誰でも加入

- 加入には2つの種類
- ①保険料補助を受けない「通常加入」
 - ②保険料補助を受ける「政策支援加入」
- ※ただし、いくつかの条件有り

プラザ安曇野と安曇野市産直センターのご紹介

事務局 細萱 宣明

プラザ安曇野は、豊科南穂高の北部、重柳に位置します。一帯を「安曇野の里」と称し、ビレッジ安曇野をはじめ施設が集まっています。昭和63年農林省新農業改善事業の補助事業として宿泊施設（ビレッジ安曇野）、ガラス工房、郷土文化伝習施設等が整備されました。運営は豊科町開発公社が担当しました。

その中で地元重柳地区住民を中心に株式会社プラザ安曇野が設立され、施設の一部を利用して土産物品、地場産品等を販売し、地域の活性化を図ってきました。

この一帯は全国百名水に選ばれた湧水地の一部であり、その風景を求めて全国各地から観光客が集まり全国ブランド化しました。

その環境を生かした販売商品の構成に工夫が必要になっていきます。特に地元農産物を求める観光客が年齢を問わず多くなっており、従来型土産品と安曇野がイメージできる農産物とのバランスを加味した商品揃いにアンテナをめぐらせていきます。

ワサビとその関連加工品、ニジマス、イワナの炭火焼。セリとクレソンは葉物が少ない冬季のプラザを代表する特産品となっています。そして、3月の「ワサビの花祭り」は、春を招く人気イベント

武蔵野市のアンテナショップ「麦わら帽子」は重要な販路拡大先です。今年8月からは、板橋区ハッピーロード大山商店街内の「とれたて村」に出品を開始しました。

特徴ある地場産農産物の人気が高まる中、安曇野市は、安曇野産農産物の消費拡大と農家所得の向上に寄与すべく、販路拡大を計画し、その実現を目指して平成21年10月、実務部隊の安曇野市産直センターを立ち上げ、平成24年4月からは、プラザがその実務を引き継ぐことになりました。



二店への毎日の出荷は、プラザの生産者はもとより、市内直売所連絡協議会の皆さんとの連携協力により集荷納入しています。

安曇野一帯からの集荷のため、農産物の品質確保が重要となりますが、安心・安全な農産物の生産を実現して、安曇野ブランド確立に役立つのが産直センターの目指すところです。

重柳地区から全国への発信地の一つとして、プラザ安曇野の現在とこれからからです。



がんばる農業者



私は 子どもの頃から、家が農家で手伝いをしてきました。

それがきっかけとなり、南安曇農業高等学校、タキイ研究農場附属園芸専門学校、長野県農業大学校と学び、「自分にはイスに座つたり、接客する仕事より体を動かす仕事のほうが向いている」「作物を育てるのが楽しい」「自分で育てた作物は美味しい」と感じ、「農業をしたい」という思いを強くしました。

大学 在学中、家族に就職を強く勧められましたが、家で行っている農業が採種ということもあり、「祖父母に技術を学べるのは今しかない。」と考え、卒業後就農しました。

現在、畑を借りてタマネギの採種を50a、トマトの採種を3a、レタスの採種を1aしています。

採種ではありませんが、他にも野菜や

ながせ のりひさ
長瀬 徳久さん (26)
(堀金烏川地区)

経営面積 137a

採種 (タマネギ) 50a
採種 (トマト・レタス) 5a
水稻 22a
その他 60a

野菜の苗を直売所などに出荷しています。

タマ ネギの採種は毎年不安定でいい年あれば悪い年もあり、なかなか安定生産できず苦労しています。採種には食べるタマネギのような母球を植えるのですが、一度育てられたものなので種から作るよりも病気になるやすく防除が大変です。開花後はミツバチによる交配なのですが、花にハチが来ないこともあり交配がうまくいきません。



トマ トの採種はタマネギと違い人の手で交配します。オス株とメス株があり、メス株の雄しべを取り除き、オス株の花粉を持ってきて交配するのでミスがないように注意しながら行います。

採種は大変なうえ不安定な仕事ですが、農業を支える農業として必要な仕事と思いいれからも出来る限り安定的な生産を目指して頑張っていこうと考えています。また、地域で採種農家の後継者ができるよう協力していきたいと考えています。



みなさんの購読のお申し込みをお待ちしております — 全国農業新聞を購読してみませんか —

全国農業新聞は

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。

「週刊」の時間を生かし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。

さらに、全国47都道府県にある支局の県版・地方版の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

発行日・購読料

毎週金曜日発行
月600円「送料、税込み」

申し込み方法

農業委員会で随時受付を行っていますので、問い合わせてください。

おみくろの味



丸山 多江委員

男性にも好まれこんなに簡単に二層になる美味しいデザートはないと思います。誰がどうやってても、かき混ぜてもクリームが浮いて二層になります。生クリームは植物性がいいですね。

作り方

- ① 水にカントんと黒糖を入れ煮溶かす。
- ② 完全に溶けたら容器にあける。
- ③ 上から生クリームを注ぎ入れる。
- ④ 固まるのを待つ。

材料 (5人分)

黒糖	300g
水	1000cc
カントんスティック	2本
生クリーム	200cc

黒糖よせ

編集後記

長年にわたって続いてきた米の減反政策も今後5年間をめぐりに変わるうとしています。

補助金も4ha以上の耕作者のみ、また、戸別補助金も来年度にはこれまでの1/3に減額になるようです。ますます農家を取り巻く環境が厳しくなってきました。

今まで農家は、農産物を作っても、他人任せのことが多かったのですが、6次産業の加工販売までとはいかなくても、丹精込めた生産物を納得いく価格で、また、顔の見える形で売っていきたいものです。

編集委員からのお願いとして、公募欄を設け、市民の皆様から、地域の活動または、農作業の中での自慢話、ユニークな話が聞けたら幸いです。

投稿は農業委員会事務局までお願いします。

編集委員 高山 忠士

明日の農業を支えている農家のみなさん、農業者年金に加入しませんか。

農業者年金は掛けた金額だけ必ず受給できる大変有利な年金です。

